平成 23 年 12 月 5 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1　日　　時　平成 23 年 12 月 5 日（月曜日）

午後２時 45 分から午後４時まで

2　場　　所　教育委員会会議室

3　出席委員

委員長　大橋　岑生　　委　員　羽賀　友信　　委　員　中村　美和

委　員　青柳　由美子　教育長　加藤　孝博

4　職務のため出席した者

教育部長	大滝　　靖	子育て支援部長	矢沢　康子
教育総務課長	若月　和浩	教育施設課長	安部　和則
学務課長	武樋　正隆	学校教育課長	小野田信子
子ども家庭課長	佐藤　正高	保育課長	佐野　　勉
中央公民館長	鈴木　　昇	中央図書館長	小倉　　進
科学博物館長	山屋　茂人	学校教育課主幹兼管理指導主事	関谷　祐二
学校教育課主幹兼管理指導主事	山田　　修	学校教育課主幹兼管理指導主事	大矢　慎一

5　事務のため出席した者

教育総務課課長補佐　栗林　洋子　　教育総務課庶務係長　新沢　達史

教育総務課庶務係　　小川　瑞穂

６　議事日程

日程	議案番号	案　　件
1		会議録署名委員について
2		委員長の選挙
3		委員長職務代行者の指定
4	第 41 号	平成 24 年度当初予算の要求について

７　会議の経過

（大橋委員長）　これより教育委員会 12 月定例会を開会する。

◇日程第１　会議録署名委員について

（大橋委員長）　日程第１　会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第２項の規定により、中村委員及び青柳委員を指名する。

◇日程第２　委員長の選挙

（大橋委員長）　日程第２　委員長の選挙を行う。

（若月教育総務課長）　大橋委員長の委員長としての任期が１月４日をもって満了するため、この 12 月の定例会で次期の委員長選挙を行うこととなる。選挙の方法については、会議規則第１条の規定により、投票又は指名推選のいずれかの方法によることとなっている。投票による選挙は、委員の互選とし、無記名で投票を行い、最高票を得た者をもって当選人とする。また、指名推選の場合は、出席委員全員の同意を必要とする。

（大橋委員長）　それでは、投票又は指名推選のうち、いずれの方法がよいか。

（羽賀委員）　指名推選の方法がよい。

（大橋委員長）　ただいま羽賀委員から指名推選の方法でという意見があったが、他に意見・異議はないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　異議なしと認める。では、委員長選挙は指名推選の方法で行うこと

とする。では、指名推選の発言を求める。

（羽賀委員）　大橋委員を推選する。

（大橋委員長）　羽賀委員から、委員長に大橋との意見があったが、他に意見はないか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

（大橋委員長）　他に意見がないようなので、委員長は大橋に決することに異議はないか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

（大橋委員長）　異議なしと認める。よって、私大橋が委員長に選任された。

これまでも委員長を務めてきたが、改めて再任となる。10 月１日に青柳委員を教育委員として迎え、新たに出発をした。これからの教育委員会のあり方を考え、皆さんの力をいただきながら努めていく。

◇日程第３　委員長職務代行者の指定

（大橋委員長）　日程第３　委員長職務代行者の指定を行う。

（若月教育総務課長）　委員長が改めて選任されたので、次の委員長職務代行者の指定についても改めて審議をお願いする。職務代行者の指定は会議規則第２条の規定により、委員長の推選により委員会が行うこととなっている。ついては、委員長から第２順位までの職務代行者の推選をいただき、審議をお願いする。

（大橋委員長）　それでは、推選させていただく。第１順位は羽賀委員、第２順位は中村委員を推選する。これに異議はないか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

（大橋委員長）　異議なしと認める。よって、第１順位は羽賀委員、第２順位は中村委員に決定した。

◇日程第４　議案第 41 号　平成 24 年度当初予算の要求について

（大橋委員長）　日程第４　議案第 41 号　平成 24 年度当初予算の要求について　を議題とする。事務局の説明を求める。

（大滝教育部長）　平成 24 年度の教育委員会当初予算について説明する。まず、説

明の進め方であるが、最初に私から全体の説明を行い、その後担当課の課長が順に説明を行う。なお、資料については、４月に定めた教育振興基本計画に基づき作成したものである。

（大滝教育部長）　【議案書に基づき説明】

（大橋委員長）　それでは、第１章　生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現の説明をお願いする。

（佐藤子ども家庭課長）
（小倉中央図書館長）　【議案書に基づき説明】
（佐野保育課長）

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（青柳委員）　長岡市は全国的にみても子育てがしやすいところと言われているが、これだけの事業があることはすばらしいと思う。産前産後家庭生活応援事業は何年前から始めて、具体的にどこが行っているのか。

（佐藤子ども家庭課長）　平成 20 年度から始めている。制度の内容は妊娠してから産後２か月の方が対象であり、家庭生活を応援ということで家事や育児の支援などを行う。登録を受けている事業所が行い、具体的には長岡と柏崎と小千谷の助産師会とシルバー人材センターも登録いただいている。そこで家庭生活応援として、買い物、洗濯などの家事も含めて利用したときに、長岡市として１回 500 円の助成を行うものである。実際には金額にもばらつきがあり、助産師会であれば１回 3,000 円程度ということもあるが、気軽に利用いただきたいとして始めているものである。１回 500 円の助成を５回まで利用することができ、ほとんど使い切る方が多い。当初は月 100 件程度であったが、現在は月 130 件程である。利用団体として助産師会が圧倒的に多い。助産師が家庭に行き、沐浴指導やおむつ交換を行う。赤ちゃんを他のところで預かって何かをするわけでなく、親の目の前で直接会話をしながら指導してもらえるということで利用が増えている。

（青柳委員）　利用が増えているということで、問題はないのかも知れないが、私も子どもと関わる仕事をしている中で存じ上げなかった。ＰＲはどのようにしているのか。例えば母子保健推進員等がこういった情報を持ったうえで家庭を訪問できたらいいのではないか。

（佐藤子ども家庭課長）　個別には母子手帳を交付する際に周知をしている。支援する側としてもこんにちは赤ちゃん訪問などで周知できるようお願いしたい。

（青柳委員）　こんにちはお誕生日訪問については、すごく画期的だと思う。主任児童委員はひとりで訪問できない。母子保健推進員がいれば、一緒に訪問できるので、すばらしい事業だと思う。

（羽賀委員）　広報の件で市政だよりに掲載されていると思うが、若い世代は市政だよりを見ているか。見ている比率は知っているのか。

（佐藤子ども家庭課長）　いろいろなイベントや子育ての駅での申し込みの必要なものなどについては、市政だよりを見て来る方の多いので見ていると思う。

（羽賀委員）　配付がアパートなどにもきちんとされているのか懸念がある。若い世代はアパートにいる方も多いので、せっかくのいい企画も知られなくてはもったいない。

（矢沢子育て支援部長）　市政だよりは町内会に入っていると町内会で配る。アパートなどで町内会に入らない人も増えてきていると聞く。そういう方のために子育ての駅などの公共施設にも置いている。そういう意味では、前よりも手にする機会が増えてはいないのかも知れない。

（羽賀委員）　私の町内では、アパートが町内会に入っていないため、回覧板もいっていない。こういうことを知らせたい世代に届いていないのではと懸念される。

（矢沢子育て支援部長）　そういうことも考慮して、どこで手にするか検討しなければいけないと思う。

（大橋委員長）　適正に見積もりをし、減額すべきところは減額し、増額すべきところは増額しているとは思うが、市民協働一体となりながらのちびっこ広場運営に係る予算の増が大きいと感じた。また、子育て支援センターと子育ての駅の関わり方について、担当課が異なっている理由は何か。

（佐野保育課長）　保育園の場合は、地域の保育園を解放して、地域に根ざした子育て支援としていろいろな相談や、お母さんたちのサークルの展開など、公立、私立各々の形で実施している。それが 33 カ所あり、県内でもトップである。その他に広場型でも子育て支援を行っている。子育ての駅については、利用者が多く、1 日 900 人利用される。その中でもただ遊びにくるだけではなくて、きちんと子育ての支援、相談

ができるようにしているものである。保育園の一室を開放することと、子育て支援の場として運営を行うしくみの違いである。

（大橋委員長）　教育委員会としても柱の一つとして子育てが非常に重要である、核にしようということがあるのか。子育てに係る予算のほうが大きく感じた。

（佐藤子ども家庭課長）　ちびっこ広場の予算増については、臨時保育士の賃金分を今までは教育総務課で予算を持っていたが、ちびっこ広場として予算を持つようにしたものである。実際は継続して事業を行うものである。力は入れている。特に保育園に入る前の０、１、２、３歳の子どもたちについては、単独の子育ての駅の利用が一番多い。家庭支援の一環として、センター型の充実は柱の一つと思っている。

（中村委員）　相談業務の報酬が増額されているがその理由はどういうものか。

（佐藤子ども家庭課長）　家庭児童専門員が２名おり、家庭児童相談員４人いるが、家庭児童専門員がリーダー的になりながら、要保護地域協議会の要としてコーディネート、相談の組み立てを行っている。児童相談所、保健所、警察、学校などの県職員と集まってケース管理、進捗管理を行っており、他の福祉保健関係の嘱託員と比べても増額が妥当と考える。

（大橋委員長）　事業主体であるが、市や各種協議会、社会福祉法人等とあるが、これはどういうことか。

（佐野保育課長）　公立保育園と私立保育園の違いであり、私立の認可保育園は法人であり、社会福祉法人あるいは学校法人という形での広域的な法人ではないと認可が認められないところである。そういった意味での社会福祉法人等というところである。

（大橋委員長）　他にないようなので、次に第２章　人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現の第１節　子どもの自信と夢をはぐくみ豊かな心を育てるまち　の説明をお願いする。

（小野田学校教育課長）
（武樋学務課長）
（若月教育総務課長）
（佐藤子ども家庭課長）
（佐野保育課長）
（安部教育施設課長）
} 【議案書に基づき説明】

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（羽賀委員）　施設について、震災であれ災害であれ、必ず学校が話題になるが、この中で３月 11 日以降、クオリティーを上げるような指導はあるのか。

（安部教育施設課長）　避難所機能については、６月から長岡市として文科省の検討委員会に出席している。東中学校、宮内中学校もそうだが、中越地震の教訓を生かして、避難中でも、ある程度状況が落ち着いたらできるだけスムーズに教育活動ができるよう、避難所機能を分離する形にしたり、屋根付広場を活用し、避難活動が冬期間又は雨天でも円滑にできるようにしている。設備的にも電源車で電気を送るなど様々なものがあり、他の校舎についても、平成 17 年から３ヵ年で予算をかけてやってきており、評価を得ている。宮内中学校もそうなるであろうが、東中学校については、全国的に視察が増えてきており、我々も知恵を出したり、先進地の動きを見ていきたい。

（大橋委員長）　学校教育課の新規事業として図書館整備と、司書巡回指導について、大変期待している。長岡市はいわゆり文化都市でありたいと思うし、青少年にとっても人間力は大事だと思うし、そうなると図書館の本を読んでほしいという願いが強くあった。司書については新潟市は早急に取組んでいることがあったが、長岡市としても継続的に実施し、各学校も図書館教育について真剣な取組をしてほしい。

（小野田学校教育課長）　ブックランドサポーターについては、国の委託事業があり、何年か委託事業として行ってきたが、国の仕分けにより事業がなくなってしまった。今後は長岡市単独で行うこととする。

（青柳委員）　ＪＨＳ長岡夢フェスタについては、イメージとしては高等学校総合文化祭と同じような文化の発表会と同じか。会場はアオーレということであるが、何月頃であるか。

（小野田学校教育課長）　発表の時期は 11 月半ば過ぎを考えている。中学校だと合唱コンクールが秋に行われ、発表が終わった頃であったり、様々な活動の成果がある程度終わった段階で、発表したいと手を挙げた学校から発表してもらいたいと考えている。

（青柳委員）　積極的に手を挙げてほしい。発表ということは、音楽であればみんなの前での発表もあるが、何か展示することもあるのか。

（小野田学校教育課長）　初年度であるため、まずは太鼓、歌、ダンスなどそれぞれの学校が取組んでいることを舞台で発表してもらおうと思う。それが定着してきたとなれば展示等も行う。

（中村委員）　お手伝い塾の開催とあるが、どのような形で事業を展開するのか。

（佐藤子ども家庭課長）　今年度１回行っており、やり方としては高校生ボランティア講座もやっており、そこに申し込んだ方 13 人に実際にお手伝いの仕方を実践的に行った。講師と話しながら１回ではもったいないので２回やってみたいということである。高校生が対象で少人数であるがやっていきたい。

（中村委員）　会場はどのあたりか。

（佐藤子ども家庭課長）　高校生ボランティア講座では今回が初めてであったが、コミュニティセンターで高齢者への給食、配食サービスを取り入れたり、ポニーのイベントにおいて、ポニーや子ども世話をしてみた。後はちびっ子広場を会場に親子とのふれあいを行った。座学ではなく、場所も移しながら工夫しながら行っていく。

（矢沢子育て支援部長）　お手伝いというと、小さい子どもに対して家庭での手伝いの役割というものを主としてやってきたが、高校生に対しては社会への自立というか、家事ができるようになって、将来一人暮らしをするときの家事力をつけてほしいということもねらいの一つである。

（羽賀委員）　宿泊型事業について、候補地や学年について教えてほしい。

（小野田学校教育課長）　長岡市内を考えている。学年は特にこだわるところはないが、２年生くらいと考えている。１月に実施したいと考えており、ちょうど次年度の生徒会が決まっている頃なので、２年生が一番いいと考えている。

（大橋委員長）　小・中学校配当予算に関わって、それぞれの学校が大変喜んでいることが理解され、うれしいことである。しかし、８年目ということを受け、本当にこれまでの形でいいのか、指導、使われ方について十分検討をしていただきたい。また、熱中！感動！夢づくり教育の推進については、我が長岡市にとって大変ありがたい動きである。これまでの事柄をさらに進めて、内容を充実させてほしい。

（中村委員）　ブックランドサポーター事業について、司書の巡回は学校に対して指導を行うものだと思うが、最近は図書館ボランティアが盛んに行われているため、司書の巡回の際に図書館ボランティアの方も参加し、直接話を聞けるような配慮がある

とよい。

（小野田学校教育課長）　教職員との連携を図ることもあるが、ボランティアの方とも専門的な司書のアドバイスがあるといいと聞いているので、ぜひそうしたい。

（大橋委員長）　他にないようなので、次に第２節　いつでも、どこでも、だれでも学べるまち　と第３節　豊かな歴史と多様な文化にふれあうまち　の説明をお願いする。

（鈴木中央公民館長）
（小倉中央図書館長）　【議案書に基づき説明】
（山屋科学博物館長）

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（青柳委員）　コミセンにおけるリーダー育成について、コミセンも開設してずいぶんたってきており、当初はありがたかったが、役割が余るようになってきた。生涯学習推進大学を卒業した後、定まった定員の中で、現場では働けない実情がある。地域に戻ってもなかなかすぐには力が発揮できない。事業自体にリーダーと地元の温度差ある。卒業時に仕事がないことが失礼にあたるのではないか。事業のすすめ方について、検討してほしい。

（鈴木中央公民館長）　コミセンの事情も地域によって違うと思う。地域の推選を受けて受講し、推進員になっていただければ一番いいが、地域によってはそういうこともある。人の入れ替わりもあるため、できるだけ活用してほしいと考えている。

（羽賀委員）　市民協働条例でも人材を要望している。そういうところで連携してほしい。新しい形で活躍いただけると思う。

（大橋委員長）　市民主体の生涯学習の推進については、地味な仕事であるが、しかし市民が学ぶ場として大切である。苦労が多いとは思うが、これまで以上にアオーレに関わる動きから新しい流れもあると思う。がんばってほしい。

（大橋委員長）　他にないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

（大橋委員長）　異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

（大橋委員長）　本日の日程は終了する。次に協議報告に入る。報告事項について、平成 23 年度　中学生夢さがし発見塾について、事務局の説明を求める。

（佐藤子ども家庭課長）　熱中！感動！夢づくり教育　中学生夢さがし発見塾　チャレンジ放送局テレビ版のテレビ放送日のお知らせである。チャレンジ放送局は中学生が普段経験できない本物の経験を自ら汗をかいて作り上げ、その中で自らの夢探しにもつながっていく事業である。昨年まではＦＭながおかのラジオ番組を作り上げていたが、今年はテレビ番組としてＮＣＴと一緒に取組んでいるものである。その放送日が 12 月 24 日土曜日の午前 10 時から１時間半、再放送が翌日の同じ時間帯として決定した。本番の集録が今週末となっており、現在は集録に向けて勉強中である。５つの中学校が取組んでいる。ぜひご覧いただきたい。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。

（大橋委員長）　他に協議報告はないか。これをもって協議報告事項を終了する。

（大橋委員長）　本日は、定例会の前に太田小・中学校を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

（中村委員）　太田小・中学校のオープンスクールは初めてお邪魔した。ただ今年３月卒業式に行ったので、その時の雰囲気とは違う、授業を見せていただいた。小学校には１、２年生はおらず、３、４年生複式と５、６年生複式で行っていた。小学校は落ち着いていた。中学校は１年生の音楽の授業を見たが、音楽の授業の割には静かであった。普段は打楽器を使った活気がある授業であるということであったが、それが見ることができず残念であった。11 月中に応募した中で４月から学校に通うことがオープンスクールで、地区の子どもと校区外の応募した子どもたちが学校に通っていた。年度途中でも登校拒否などその子その子の事情で違う子どもが転入し、授業を受けている様子を見ることができた。中学生と一緒に給食を試食した。給食の間は話してくれたり、笑顔も見ることができた。こういう学校の意義、ありがたみを親御さんの気持ちになって考えるとありがたいと思った。こういった支援を続けていきたいと思った。

（羽賀委員）　これは長岡市教育委員会の誇りだと思った。また現場でないとわからない雰囲気を感じることができた。細かいマンツーマンの指導が行き届いており、子どもたちが復活して学校に通えるようになることは、教育の原点である。これからも力を入れてほしい。

（青柳委員）　中学校の教室に入ったときに、私が中学校に通う理由、私が高校に行きたい理由が箇条書きで書いてあった。個人個人が思っていることを具体的に書いてあった。他の学校で、中学校に通う理由、高校に行きたい理由を自問自答している生徒がどのくらいいるのかと考えたときに、この子供たちは大人だなと感じた。この学校に通うと不登校の解消率が非常に高いとのことであった。先生方、生徒・児童が特色として自分らしさ伸ばせるという形で変わっていけたら素敵だと感じた。校舎が古いけどきれいであった。

（大橋委員長）　子供たちが明るくて、一生懸命学習に取り組んでいた姿を見ることができてうれしかった。今日は授業を見ることができ、音楽の授業は専門の先生がいるので、立派であり、５、６年生の授業の英語は、中学校の先生が入って授業を行っていたので、なかなかのものであった。そういう見方をすると非常に恵まれていると思う。あわせて、教職員の方が、もっとこのオープンスクールのために力を発揮するということが他校にも伝わるとよい。

（加藤教育長）　今、学校でいじめや問題行動が見られる子どもは、周りの子どもが決め付けてみているところがある。不登校の子どもは、環境がよければ元気になる。むしろ、他の学校に行っていて、意思表示をしない子どもたちのほうが将来不安かもしれない。不登校という形で、意思表示、身体表示をしている子どもたちは受け止めてあげなければならない。厳しい条件の中で、職員がきめ細かな対応をしていることにうれしく思った。

（大橋委員長）　これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員